



ふじみ

学校ホームページ <http://higashimurayama.ed.jp/e15-fujimi/>

令和7年5月30日発行

東村山市立富士見小学校

〒189-0024 富士見町 5-4-57

TEL042-391-8194

校長 戸崎 晃

心のふれあい

あいさつから始めよう

校長 戸崎 晃

「おはようございます。」

朝、登校してくる子供たちのさわやかな声は、今日がとてもいい一日になるようなうれしい気持ちにさせてくれます。先日は、3年生の児童が私と並んで正門で一緒にあいさつをしてくれました。思いもよらぬ同志?の参加に、うれしさいっぱいの笑顔になりました。また、最近では通学途中の高校生や、経産省の方とも挨拶を交わすようになりました。

私は担任の頃から、挨拶は最も大切な礼儀の一つであり、社会に生きる人間としての基本であると子供に伝えてきました。きちんと挨拶をするかしないかは、その行動にとどまらず、挨拶ができる人間なのかどうか、人間性が問われる場面もあるのではないかと思います。大きくなって社会に出ていくときに、挨拶ができないために、自分の力を十分に発揮できる場面を失うことがないようにとの願いからしっかり指導してきました。

日本語における挨拶は、話しかける言葉の後ろの部分省略されてきたものと考えられています。

「おはよう」は、

お早く〇〇ですね。(起きられましたね。会いましたね。精が出ますね。など)

「こんにちは」は、

今日は〇〇ですか。(ご機嫌いかがですか。調子はどうですか。など)

「こんばんは」は、

今晚は〇〇ですね。(過ごしやすいですね。寒いですね。など)

挨拶は、人を思いやる心が含まれている言葉、初めて会った人にもその思いを伝えられる大切な言葉だと思います。

道徳科では、「主として人との関わりに関すること」の中に「礼儀」が位置付けられています。その内容は発達段階に応じて設定されています。また、指導の重点も示されており、学校と家庭と地域が、同じ方向性をもって適確で適切な働きかけを行うために、理解しておくことが大切です。

1・2年生の内容は、【気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。】具体的な状況の下での体験を通して実感的に理解を深めさせること、外出時や公共の場での振る舞い方など社会との関わりの中での礼儀についても考えさせることが重要です。

3・4年生の内容は、【礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。】この段階の子供が気の合う友達同士で仲間集団をつくる傾向が見られるため、誰に対しても真心をもって接する態度を育てるようにすることが特に重要です。また、家庭や地域社会での日常の挨拶、学習や給食の際の態度、校外学習など見学先での振る舞い等について考えさせることも大切です。

5・6年生の内容は、【時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。】行動範囲の広がりとともに様々な人との関わりも増えてくることから、挨拶などの礼儀は社会生活を営む上で欠くことのできないものであることを押さえ、礼儀作法の形にこめられた相手を尊重する気持ちを子供自身の体験などを通して考えさせることが効果的です。

中学生の内容は礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとることです。

私たちの地域には、「富士見町あいさつ運動推進委員会」があり、毎月28日の朝、地域の方が学校門であいさつ運動をしてくださっています。この日は、富士見小・南台小・第一中・東村山西高・明法高・日体大桜華高と、地域の学校で一斉にあいさつに取り組んでいます。挨拶のもつ心の温かさ・豊かさについて今一度考え、人とのつながり、心のふれあいを大切にしていきたいと思っています。